

こうすれば困難事例が減ります！

～ TEACCHとABAの理論を活用した行動問題への対応 ～



R2.10.16 障がい児成長支援協会



合同会社サクスシェア
代表社員 田中 さとる



1984(昭和59)年 小学校教諭として勤務
1996(平成8)年 国立鳴門教育大学大学院学校教育研究科生徒指導コース入学
(現職教員として専門知識を高める研修の機会を得る)
1999(平成11)年 福岡県教育センター研修主事として現場教職員の研修事業に携わる

2006(平成18)年 社会福祉法人に入職し障害福祉サービス事業に従事
経験業務 特別支援学校放課後支援事業責任者
福岡市委託相談支援コーディネーター(相談支援専門員)
障がい者グループホーム管理者・サービス管理責任者
生活介護(障がい者通所施設)サービス管理責任者

2016(平成28)年 合同会社サンクスシェア創立
2016(平成28)年 相談支援事業所(障がい者)福岡市指定
2017(平成29)年 相談支援事業所(障がい児)福岡市指定
2018(平成30)年 一般社団法人九州発達障がい支援協会設立 代表理事

【資格】

- ・小中高教諭専修免許
- ・障害福祉サービス管理責任者(全分野)・児童発達支援管理責任者
- ・相談支援専門員
- ・鳴門教育大学生徒指導学会会員
- ・西日本心理劇学会会員
- ・日本保健教育学会会員

【実績】

- ・強度行動障がい勉強会、相談支援勉強会、障がい児支援者学習会を毎月主催
- ・連携する関連団体:福岡福祉向上委員会事務局員、エブリワン協会理事
福岡・筑紫地区地域福祉支援協会、障がい者の明日を考える会、福岡療育研究会
- ・放課後等デイサービス8県20事業所教育コンサルティング(R2.10.1現在)

- ◆ 田中さとる
- ◆ 57歳
- ◆ 4人家族
- ◆ 北九州市生まれ
- ◆ パイナップル好き
- ◆ 納豆きらい
- ◆ 早起き得意
- ◆ 好きなところ
「ストレスほぼなし」
- ◆ 好きなフレーズ
「やれない理由を探さずに、どうしたらやれるかを考える!」
「Life is choosing
人生は選択の連続だ」



Point① 行動問題は、なぜ起きるのか？の理解

強度行動障がい 行動の機能 冰山モデル 随伴性

Point② 行動問題を減らすための方策

行動問題への対応サイクル 構造化（TEACCH理論）

Point③ 望ましい行動を身につけるための方策

5段階戦略（ABA理論） バイパスモデル

Point④ 支援とは？

コーチングスキル ティーティングスキル カウンセリングスキル

行動問題はなぜ起きる？



番号	行動障害の内容	1点	3点	5点
1	ひどく自分の体を叩いたり傷つけたりする等の行為	週に1回以上	1日に1回以上	1日中
2	ひどく叩いたり蹴ったりする等の行為	月に1回以上	週に1回以上	1日に数回
3	激しいこだわり	週に1回以上	1日に1回以上	1日に数回
4	激しい器物破損	月に1回以上	週に1回以上	1日に数回
5	睡眠障害	月に1回以上	週に1回以上	ほぼ毎日
6	食べられないものを口に入れたり、過食、反芻等の食事に関する行動	週に1回以上	ほぼ毎日	ほぼ毎日
7	排泄に関する強度の障害	月に1回以上	週に1回以上	ほぼ毎日
8	著しい多動	月に1回以上	週に1回以上	ほぼ毎日
9	通常と違う声をあげたり、大声を出す等の行動	ほぼ毎日	1日中	絶えず
10	パニックへの対応が困難			困難
11	他人に恐怖感を与える程度の粗暴な行為があり対応が困難			困難
合計	合計点数が10点以上＝強度行動障害	_____点		

(強度行動障害基準表)

強度行動障害の定義

精神科的な診断として定義される群とは異なり、直接的他害（噛み付き、頭突き等）や、間接的他害（睡眠の乱れ、同一性の保持等）、自傷行為等が通常考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では著しい処遇の困難な者であり、行動的に定義される群

家庭にあって通常の育て方をし、かなりの養育努力があっても著しい処遇困難が持続している状態

（行動障害児者研究会 1989年）

指標チェックシート

利用者氏名(

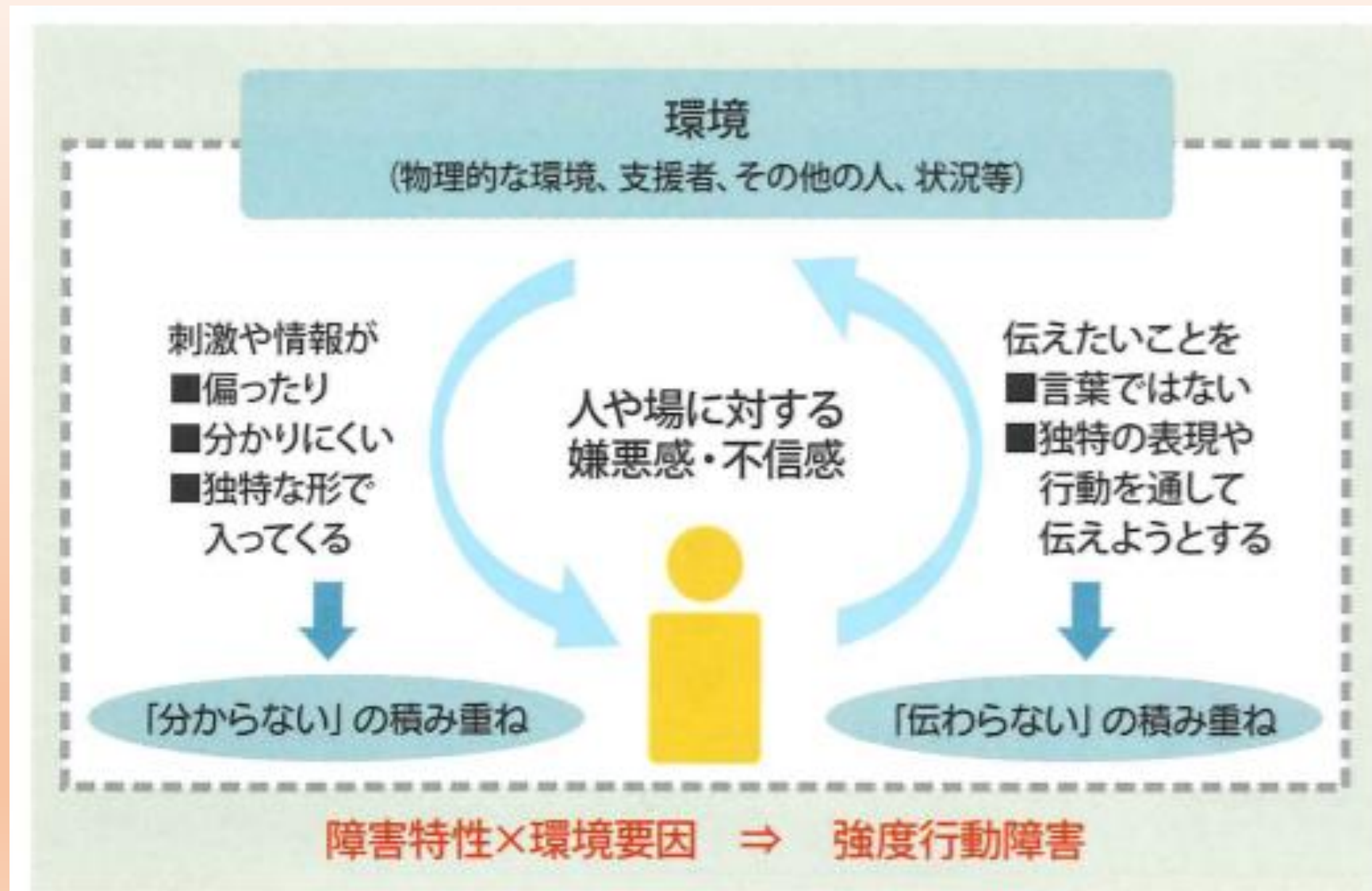
)合計/

点

※指標該当…評価の合計が13点以上である児童の数が児童全体の50%以上であること

番号	項目	0点	1点	2点	評価
1	コミュニケーション	1. 日常生活に支障がない	4. 週に1回以上の支援が必要	4. 独自の方法でコミュニケーションできる 5. コミュニケーションできない	
2	説明の理解	1. 理解できる	2. 理解できない	3. 理解できているか判断できない	
3	大声・奇声を出す	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
4	異食行動	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
5	多動・行動停止	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
6	不安定な行動	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
7	自らを傷つける行為	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
8	他人を傷つける行為	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
9	不適切な行為	1. 支援が不要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
10	突発的な行動	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
11	過食・反すう等	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
12	てんかん	1. 年1回以上	2. 月に1回以上	3. 週に1回以上	
13	そううつ状態	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
14	反復的行動	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
15	他人面の不安緊張 集団生活への不適応	1. 支援が必要 2. 希に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要	
16	読み書き	1. 支援が不要	2. 部分的な支援が必要	3. 全面的な支援が必要	

なぜ強度行動障害になるのか？

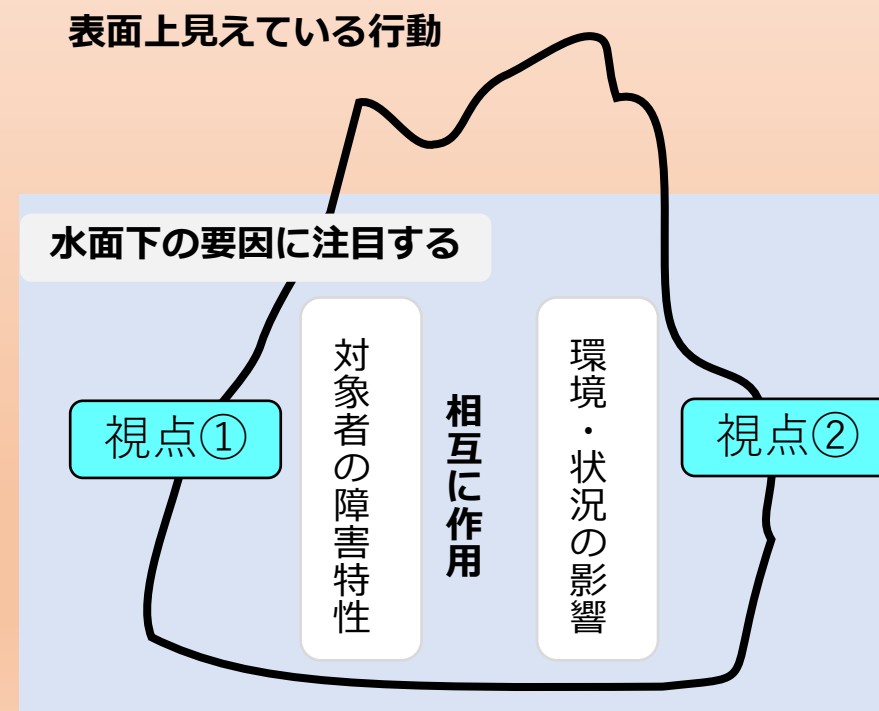


行動問題を理解する2つの視点

背景の障害特性を推測する | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）を推測し、リストアップする。その際、行動の生起要因のきっかけとなっている環境（本人に影響を及ぼす物、事、人）要因にも留意する。

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考える。



行動問題を理解する2つの視点

視点①

【障がい特性】

【障害種別】

- ・ 身体障害（視覚障がい）
- ・ 身体障害（肢体不自由）
- ・ 身体障害（聴覚障がい）
- ・ 知的障害
- ・ 発達障害
自閉症スペクトラム（アスペルガー障害など）
注意欠如・多動性障害 学習障害など
- ・ 精神障害
- ・ 難病（脊髄小脳変性症） など

【成育歴】

【病歴】

【学力】

【検査結果】

【家庭環境】

【興味関心】

【得意不得意】

【エピソード】

冰山モデルを用いた支援の考え方（自閉症の子どもの例）

視点②

- おやつの時間になると、走って部屋の隅にかくれる
（直前の活動までは全く問題なく参加できる）
- 声かけするが、かたくなに動こうとせず激しく抵抗する
（他害のリスク有り）

水面下の要因に注目する

障害特性：

- ・ 先の見通しをもちにくい
- ・ 苦手な人意識が強い
- ・ 強いこだわりがある

環境要因：

- ・ 今日は何のおやつか知らされていない
- ・ 手洗い場に人が並んでいる
- ・ 食べる部屋がころころ変わっている

【その他】

- ・ おやつの内容
- ・ 容器
- ・ 食べる場所
- ・ 手洗い場
- ・ おやつ後の活動
- ・ 体調
- ・ 空腹度 など

「支援」を支える理論の理解

A B A : **A**pplied **B**ehavior **A**nalysis

T E A C C H : **T**reatment and **E**ducation of
Autistic and related **C**ommunication
handicapped **C**hildren



支援を考える2つの理論

A (状況)

きっかけ
行動の目的
行動の機能

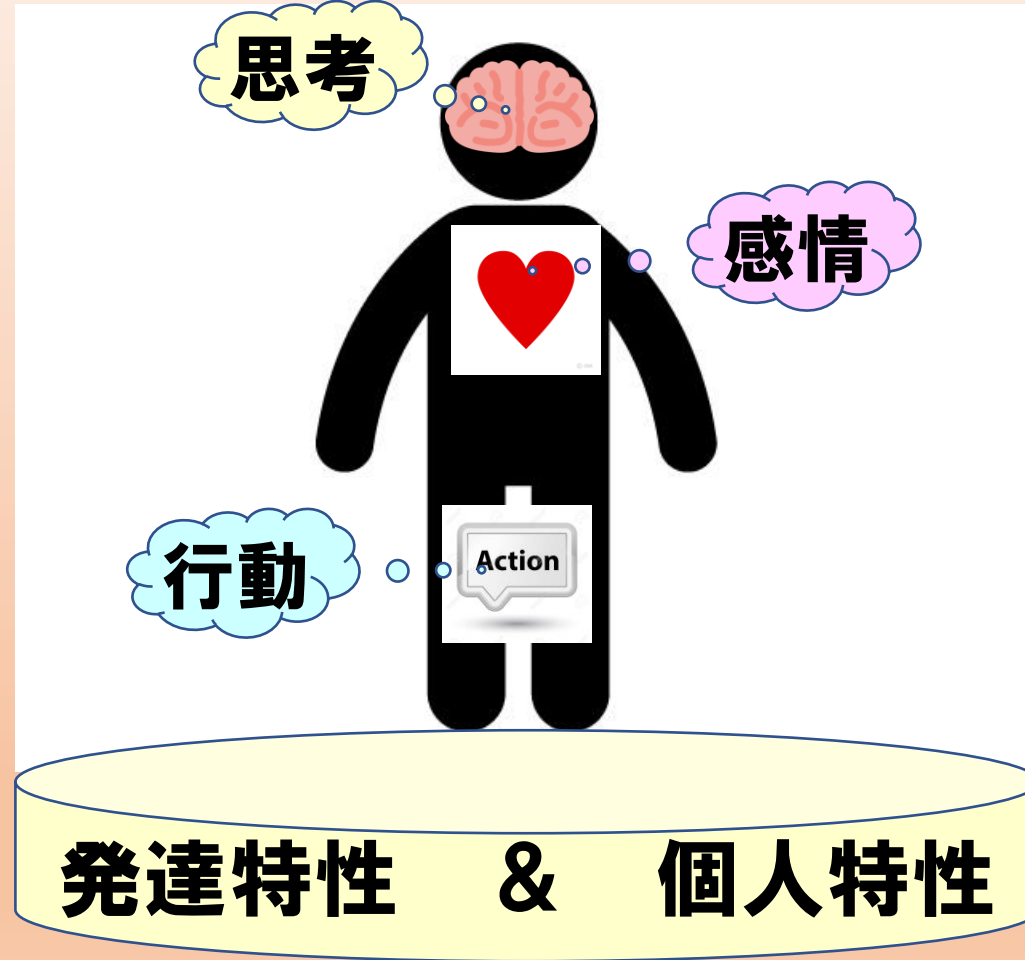
外的刺激

TEACCH

もの・ひと・こと



B (行動)



C (結果)

要求達成
心理的安定
心理的満足

内的刺激

ABA

強化子・意味づけ

構造化とは

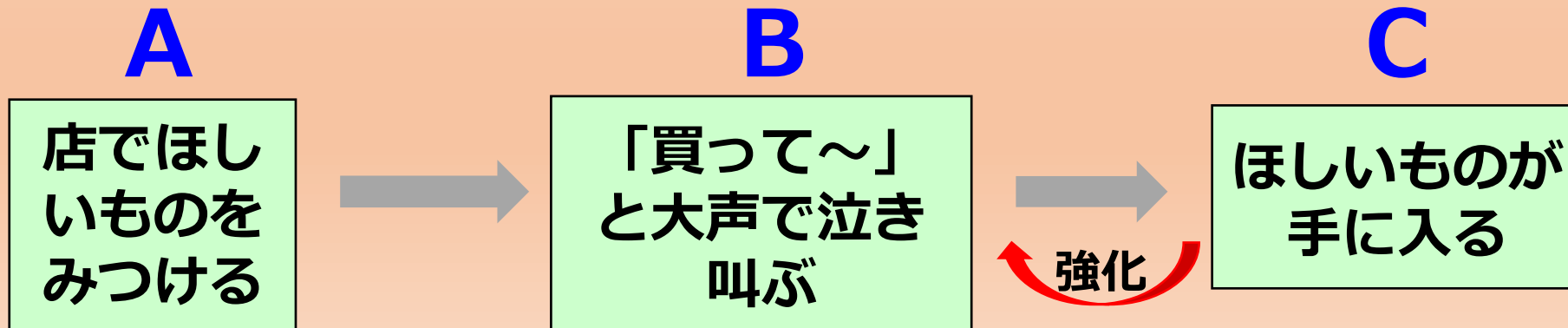
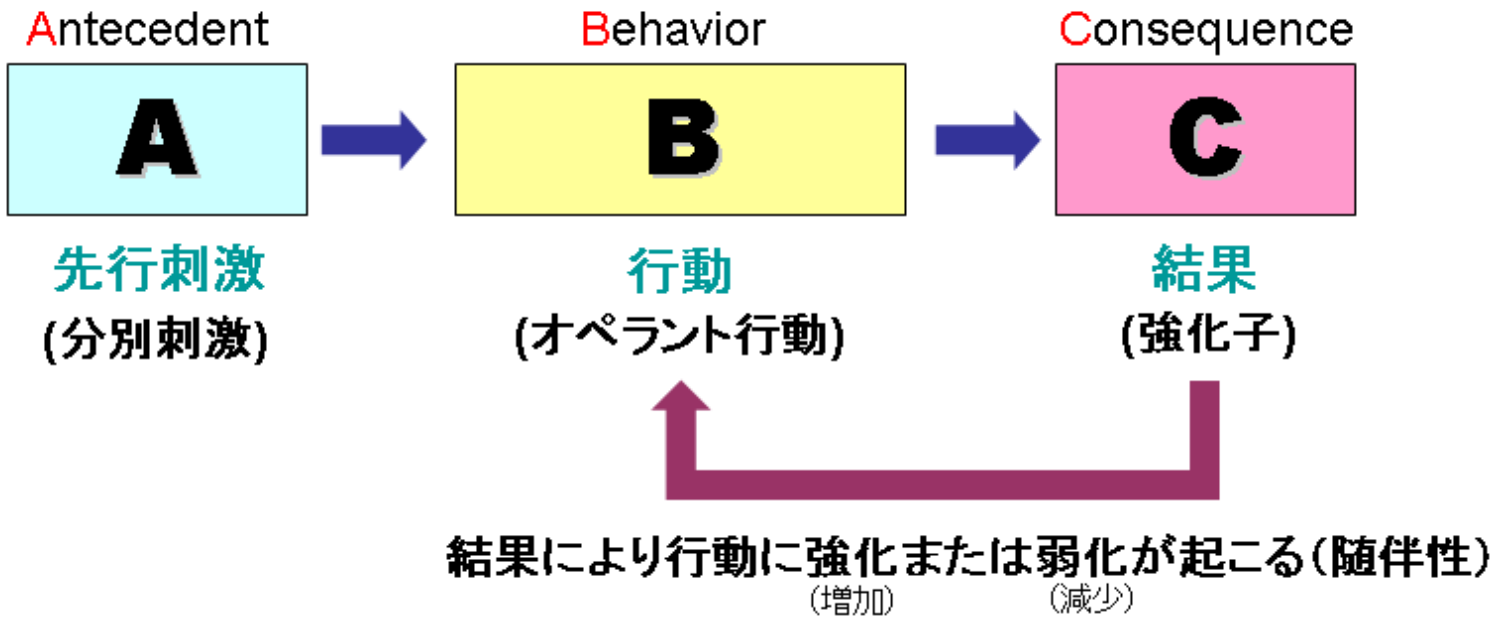
物事の全体を定義した上で「構成要素」と「構成要素間の関係」を整理する取り組み。

構造化のメリット

- ・ 問題解決の漏れやダブりを回避しやすくなる
- ・ 問題の原因に対して適切な対処ができるようになる
- ・ 問題解決の優先順位がつけやすくなる
- ・ 情報共有やコミュニケーションがしやすくなる

支援を考える2つの理論

三項随伴性(ABC分析)



行動問題への対応と望ましい行動の育成

ステップ ①

① 行動問題の発生を回避する支援力

状況と時期の適切な見立て



ステップ ②

② 望ましい行動を身に付けさせる

ステップ ①

行動問題の発生を減らす



行動問題を防ぐサイクル

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）



③ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ア 安全の確保
 - ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう安全を確保する（自傷の軽減 他児の移動など）
- イ 刺激の除去
 - ・ いやになっている刺激を取り去る（視覚 聴覚 触覚 におい など）
- ウ 刺激の制御
 - ・ 現状以上の刺激を与えない（クールダウンスペース クールダウン部屋）
- エ 受け入れ
 - ・ まずは気持ちのすべてを受け止める
- オ 切り替え
 - ・ 本人が興味ある話題や物を使って気持ちを切り替える
- カ 見守る
 - ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ

② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ア 聞き取り
 - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
 - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
 - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
 - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
 - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む）
 - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
 - ・ 今後のふるまい方の約束をする
 - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

③ 約束に沿った対応をする

才 今後の方針確認

- ・ 今後のふるまい方の約束をする
- ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

- ・ 目標や取り組みの内容と方法を「ルール化」する。

Point ① ルール化は、可能な限り『子ども自らが決める方向で』

Point ② 決して『押し付けにならないように』

Point ③ 取り組みの評価は、随時、定期的に！

Point ④ 取り組みの成果には、必ず評価（＝賞賛・報酬）を！

① 起きた行動問題の分析

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

原因・要因が
明確になれば

行動問題の4つの機能

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

本人にとって、行動したことにより、どんな結果が得られ、
どんな機能があるかを適切に推測するのがプロとしての専門性

① 起きた行動問題の分析

さとるさんの行動記録

- 他の利用者につかみかかる・・・●
- 危険を感じた・未然に防いだ・・・○
- その他の攻撃等・・・×

活動	10/13 (月)	10/14 (火)	10/15 (水)	10/16 (木)
来所・準備	●	○	×	
宿題の時間				
休憩の時間	● ● ×		○○	
集団の活動		××		
昼食・昼休み	○		● ○	● ○
散歩				
自立課題		●		
帰り	○ ×			● ○

① 起きた行動問題の分析

__月__日の__さとる__さんの行動記録

起きた場面・状況	起きた行動	行動の後に起きたこと
<ul style="list-style-type: none">9:50頃、活動に向かう途中〇〇さんが大声を出しながら部屋内を行ったり来たりしていた気にするさとるさんにA職員が制止して別の部屋に促した	<ul style="list-style-type: none">〇〇さんを気にして近づこうとした職員に制止されると興奮が高まり壁を蹴った	<ul style="list-style-type: none">A職員の誘導で別の部屋に移動し、作業に取り組むことができた作業をしているうちに興奮は治まった
<ul style="list-style-type: none">13:00過ぎ、散歩前のトイレ入れ違いに〇〇さんがトイレから出てきた	<ul style="list-style-type: none">突然、〇〇さんに頭突きをした	<ul style="list-style-type: none">B職員が制止静養室に誘導され、落ち着くまで一人で過ごした（約30分）

※関連しそうなその他の情報

- ・前日の夜は寝付きが悪く、睡眠時間が4時間程度。
- ・最近、睡眠が乱れているとの母からの情報あり。

② 行動問題が起こらない環境設定をする

1 物理的環境の整理統合

2 予測性のある活動の手順

3 視覚的スケジュール

4 ルーティンと柔軟性

5 構造化されたワーク／活動システム

① 内容 ② 量や時間や期間 ③ 終わり ④ 次の予定

6 視覚的に構造化された活動

① 視覚的指示 ② 視覚的整理統合化 ③ 視覚的明瞭化

構造化された指導法の要素 (TEACCH)

TEACCHとは何か? 腹巻智子 エンパワメント研究所

② 行動問題が起こらない環境設定をする

【環境設定のアプローチの視点】

ア 好みを利用する

イ 選択機会を取り入れる

ウ 行動問題の生じていない状況を利用する

エ とにかくほめる

オ 先回りをする

カ 環境を整える

キ スモールステップを組む

ク 高頻度で行われる行動レパートリーを利用する

② 行動問題が起こらない環境設定をする

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

② 行動問題が起こらない環境設定をする

宿題時の飛び出し！

- ① 順調に宿題（ローマ字の読み書き）を開始
- ② 「教えて～！」 Aスタッフが対応
 - ・ローマ字表を持ってくる
 - ・ホワイトボードを持ってくる
 - ・他の児童から呼ばれて、本人から離れる
- ③ 宿題を紙吹雪状にびりびりと破る
- ④ Aスタッフ、Bスタッフが制止する ➡ 施設を飛び出し！

【行動問題を起こした本人の思い・考え】

「（まわりが）うるさい」

「ローマ字が苦手、わからん！」

「写す作業もわからん！ 疲れる・・・」

「サクサク教えてほしい。ペースが合わん！」

「（先に友だちが終わったのを見て）あせった！」

「（Aスタッフが離れて）いつ帰ってくるかわからん！」

② 行動問題が起こらない環境設定をする

宿題時の飛び出し！

	もの	ひと	こと
本人	<ul style="list-style-type: none">・ 落ち着いて学習できる環境として仕切りがある机を準備・ 小文字が載っているローマ字表を準備・ 模写サポート道具の準備（ホワイトボード、模写台など）	<ul style="list-style-type: none">・ 本人及びその場から離れる際の本人への声かけの工夫・ 本人を待たせる際の明確な指示の工夫（時間指定など）	<ul style="list-style-type: none">・ できる範囲で「自立的」な行動を促す基本的姿勢をスタッフ間で共通確認する。
まわり	<ul style="list-style-type: none">・ 3人に1人以上のスタッフ配置・ 児童を迎える事前準備の徹底	<ul style="list-style-type: none">・ 宿題が早く終わった子への適切な声かけの工夫	<ul style="list-style-type: none">・ 事業所へ到着後の動線誘導の再確認・ 送迎車内での事前声かけの工夫・ 当日の支援に関わるミーティングの充実

ステップ ②

望ましい行動を身に付けさせる

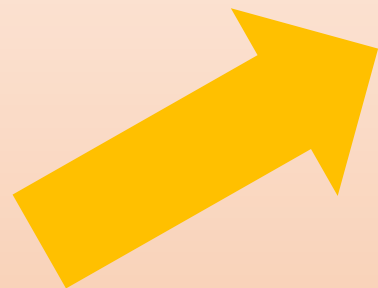


望ましい行動を身に付けさせる

ステップ①

① 行動問題の発生を回避する支援力

状況と時期の適切な見立て



ステップ②

② 望ましい行動を身に付けさせる

望ましい行動を身に付けさせる

A (状況)

店でほしいものをみつける



B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ



C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

『B』の行動を変える

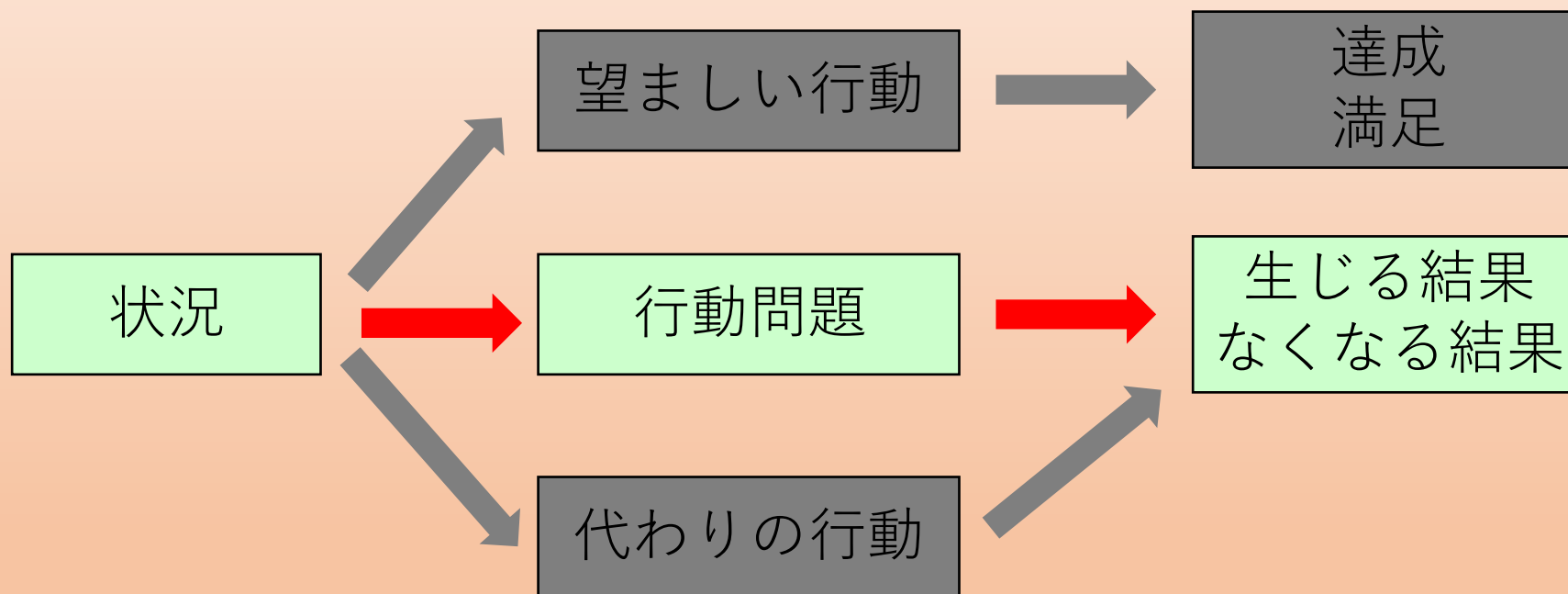
① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

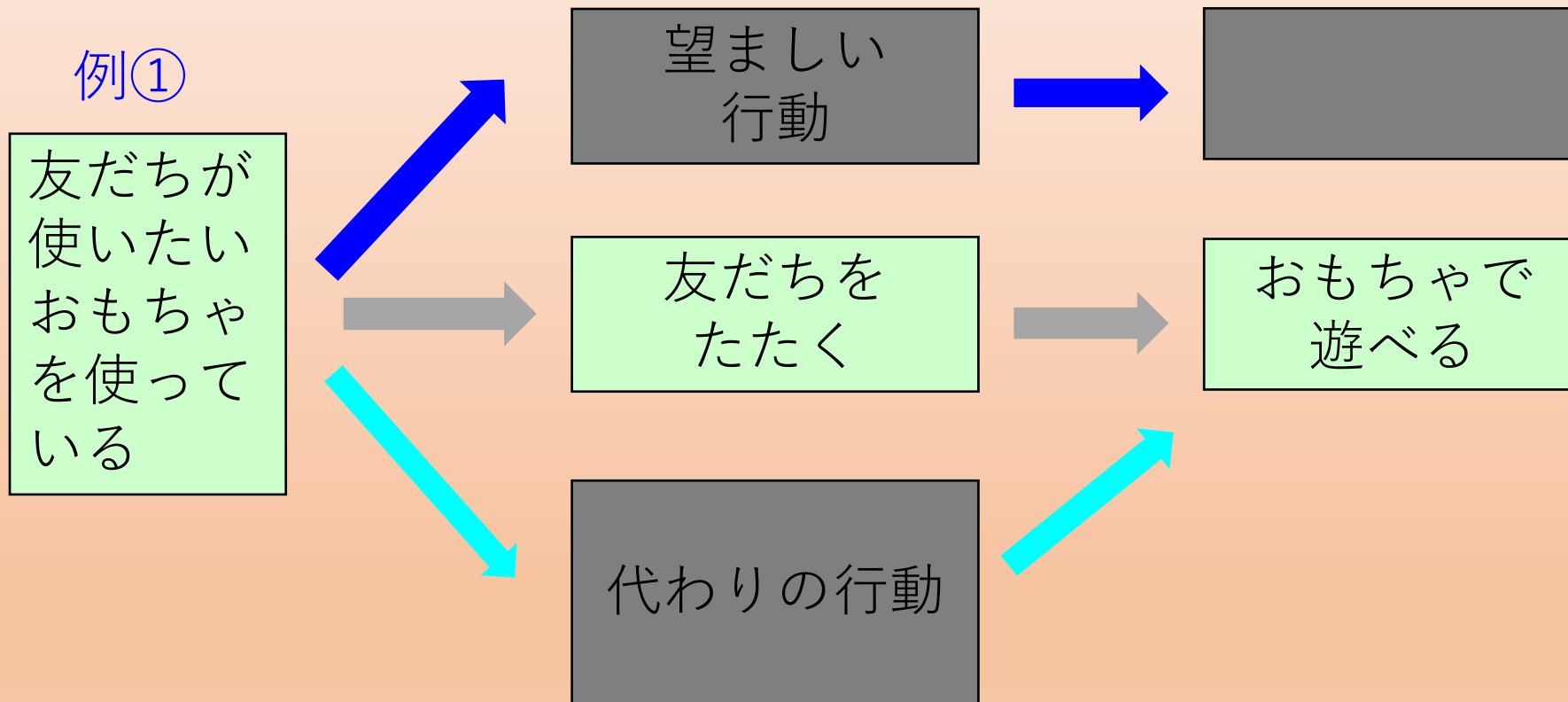
【子どもの力を高める支援を検討する】



望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



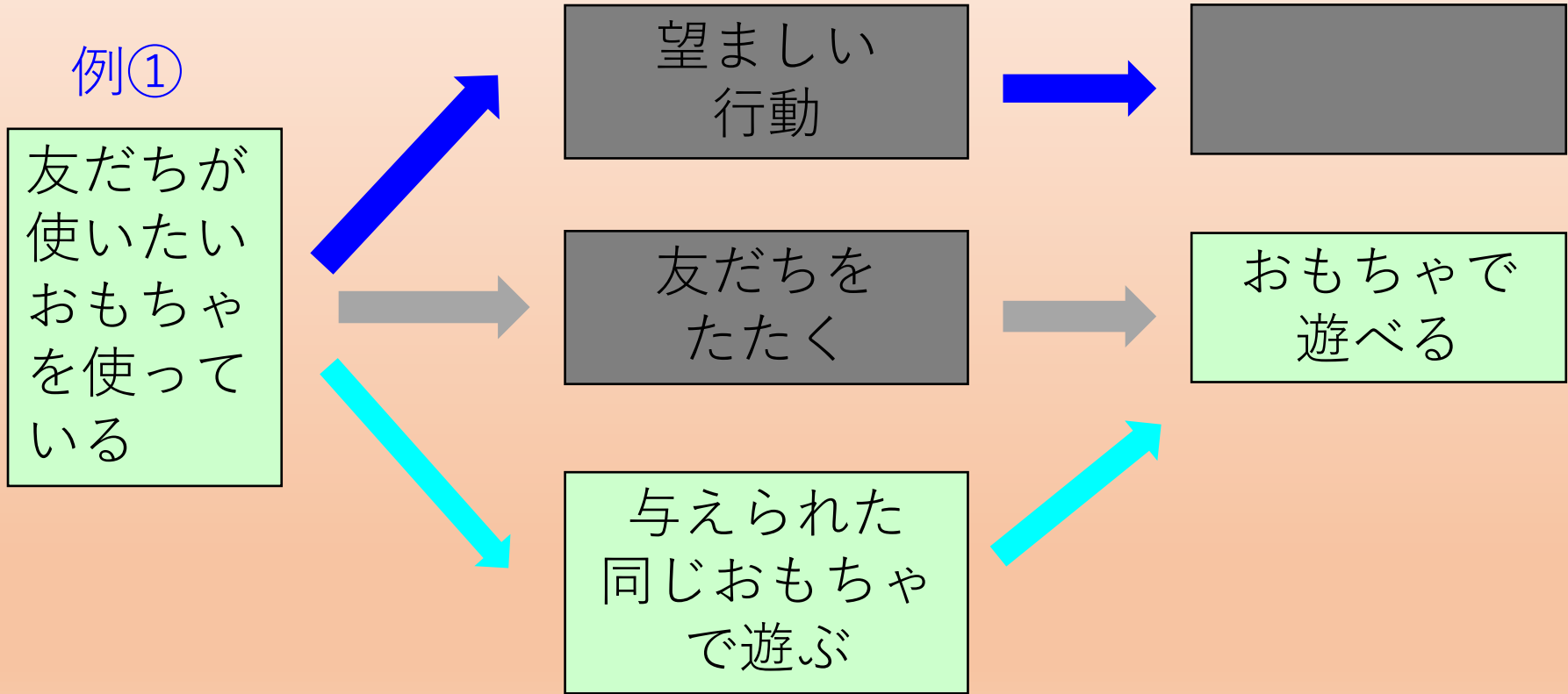
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力&支援力養成ガイド

望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】

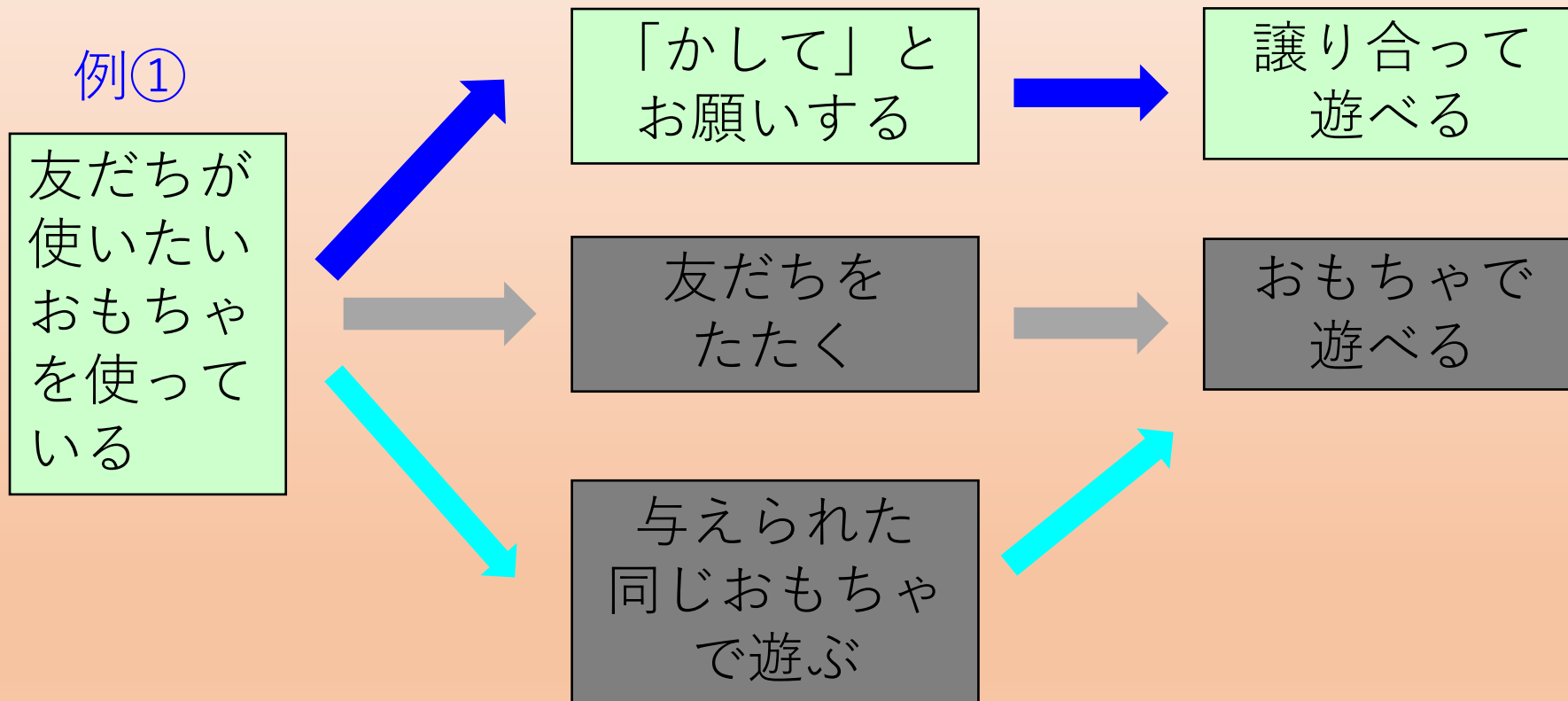


※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！
子ども観察力&支援力養成ガイド

望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力&支援力養成ガイド

望ましい行動を身に付ける5段階戦略

- ① **不適切行動を減らす・なくす 「消去」**
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② **望ましい行動を新たに獲得させる 「シェイピング」「SST」**
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ **獲得した行動を維持させる 「強化スケジュール」**
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ **獲得した行動を般化させる 「分化強化」**
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ **獲得した行動の自立度を高める 「フェイディング」**
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

支援の見立てを考える

「障がい」の2つの“D”

Disability

Learning Disability, LD

The screenshot shows the Weblio dictionary page for the word "ability". The search bar contains "ability" and the page is set to "と一致する" (Match exactly). The main content area is titled "abilityとは" (What is ability?). It includes a main meaning: "主な意味 できること、能力、技量、力量、才能" (Main meaning: things that can be done, ability, skill, strength, talent). A "new!" tag points to "イラストで分かる英単語" (English words explained with illustrations). The page also shows the pronunciation "a·bil·i·ty" and a table with details about the word's usage and learning level.

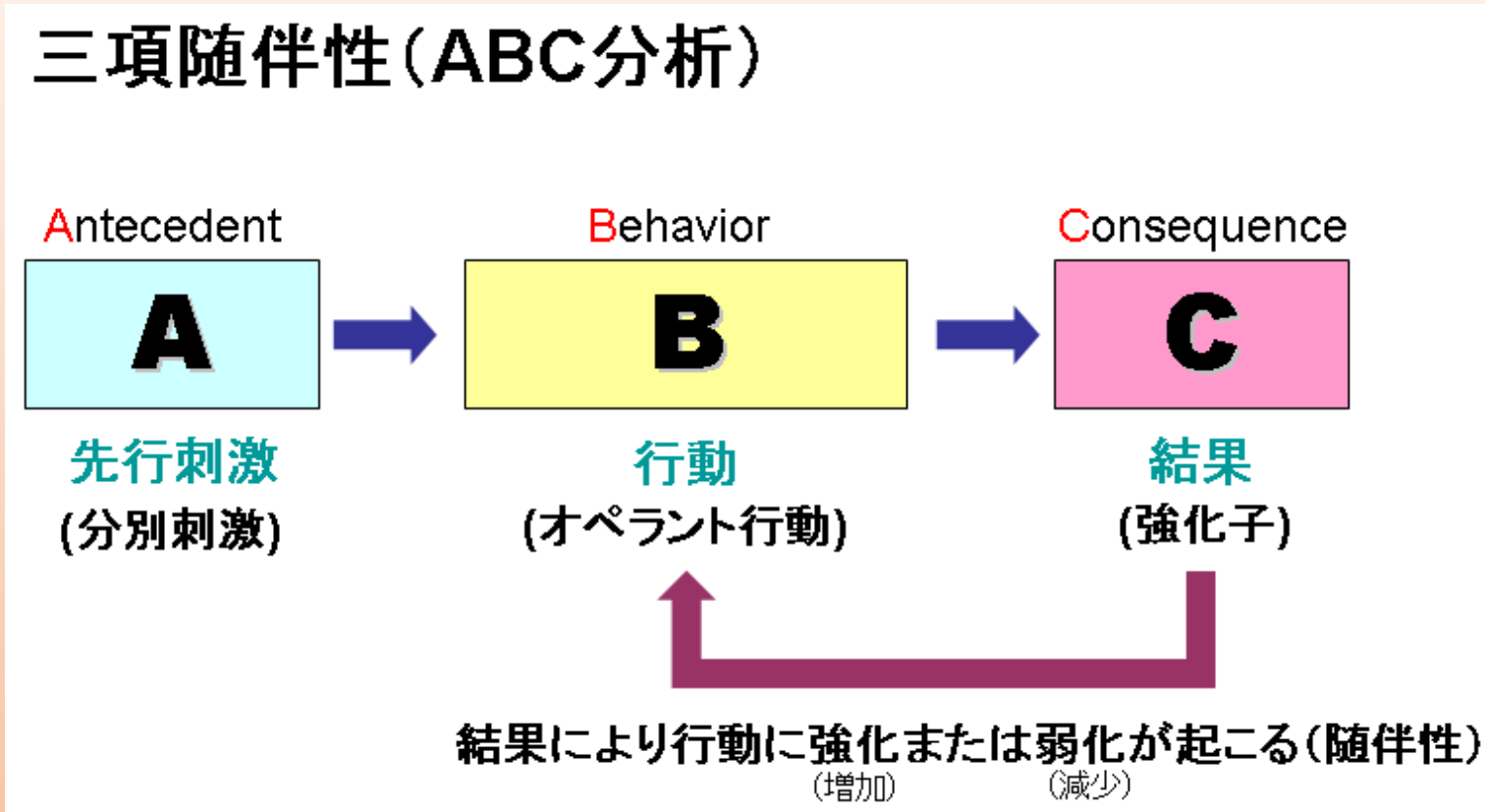
Disorder

Attention-deficit hyperactivity disorder、ADHD

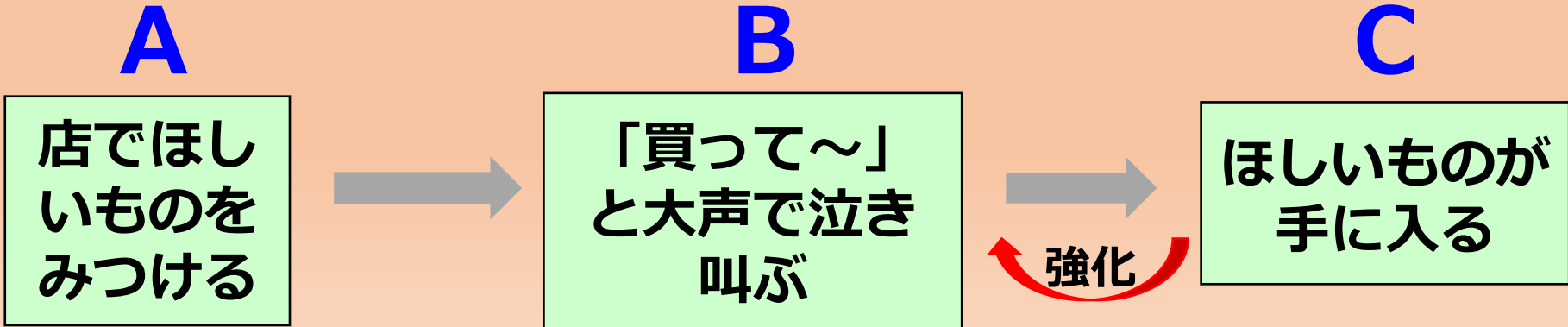
The screenshot shows the Weblio dictionary page for the word "order". The search bar contains "order" and the page is set to "と一致する" (Match exactly). The main content area is titled "orderとは" (What is order?). It includes a main meaning: "主な意味 順序、順、語順、整理、整頓(せいとん)、整列、(...の)状態、調子、(社会の)秩序、治安" (Main meaning: order, sequence, word order, organization, arrangement, state, rhythm, order, security). A "new!" tag points to "イラストで分かる英単語" (English words explained with illustrations). The page also shows the pronunciation "or·der" and a "コア" (Core) section explaining that "order" refers to a sequence or arrangement.

『新たなできる』をつくる・『今あるできる』を増やす の見極め


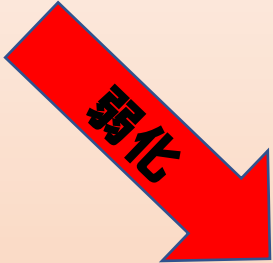
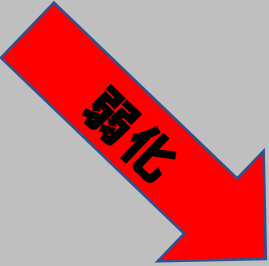
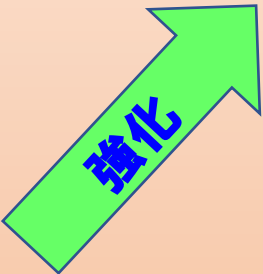
ABAの基礎用語



ルール
による
制御



ABAの基礎用語

	出現	消失
好子		
嫌子		

【好子】

行動の直後に**出現**すると、その行動の将来の生起頻度を上げる、
刺激、出来事、条件

【嫌子】

行動の直後に**消失**すると、その行動の将来の生起頻度を上げる、
刺激、出来事、条件

【強化（好子出現）】

行動の直後（**60秒ルール**）に、好子が出現したり、好子が増加する、という経験をすると、その行動は将来起こりやすくなる。

ABAの基礎用語

【好子の種類】

- 生得性好子（無条件）・・・生命維持に関する基本的欲求を充足
食べ物、飲み物、におい、味、睡眠、性的刺激 等
- 習得性好子（条件性）・・・ごほうびであることを後の学習で身に付けた
タブレットでゲーム、お出かけ、買物、言語的賞賛 等
- ★ 般性好子・・・この強化子が別の強化子を得るために使用される
お金、ごほうびシール等
- ★ 社会的好子・・・人とのかわりが強化子として機能した場合

プリマック
の原理

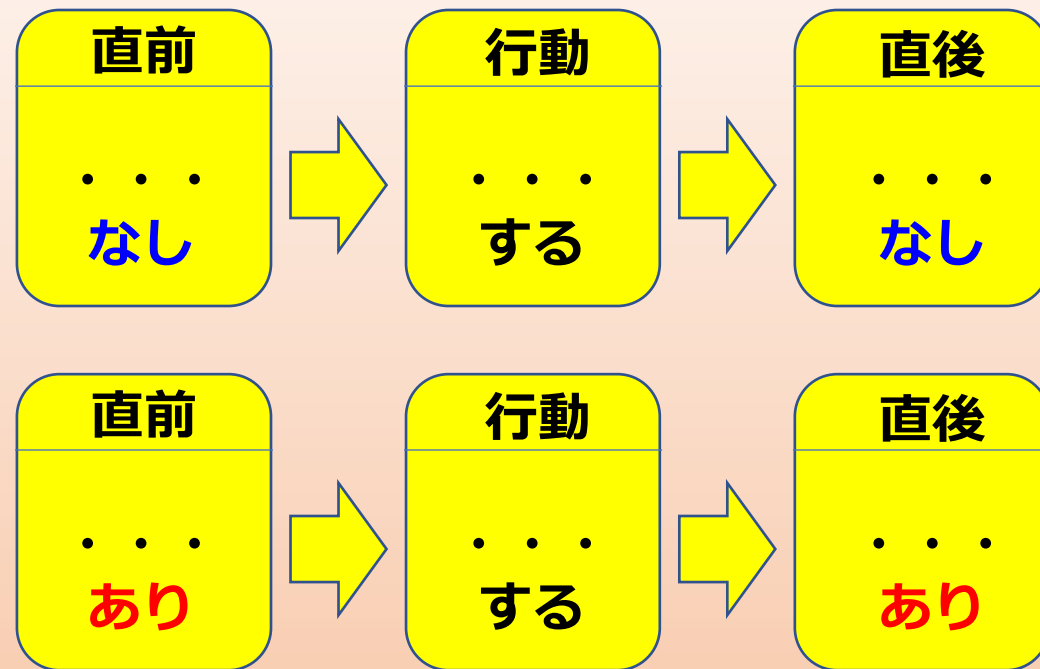
好子の量は少ない方がよい（飽和・遮断）

戦略① 減らす・なくす

【消去される場面】

【消去】

これまで**強化されていた行動**に対して強化の随伴性を中止すると強化の随伴性を導入する以前の状態までその行動は減少する



【バースト】

消去手続きを開始した直後**一時的に**行動の頻度や強度が**爆発的に増える**こと

【復帰】

これまで弱化されていた行動に対して**弱化の随伴性を中止すると**弱化の随伴性を導入する以前の状態まで**行動は増加する**

★ エクスポジチャー療法

戦略② 新たな行動の獲得

【シェイピング】

目標行動に**より似ている行動**だけを
次々と分化強化していく手続き

【目標行動】

レパートリーでない行動の1つで
目標行動と関係の深い次元上で
似ている行動

【出発点行動】

レパートリーの1つで
目標行動と関係の深い次元上で
似ている行動

好子の特定

好子固定
シェイピ
ング

好子変動
シェイピ
ング

戦略③ 行動の維持・持続

【連続強化スケジュール】

行動するたびに
好子が出現したり
嫌子が消失すること

【部分強化スケジュール】

何回かに1回だけ
行動に随伴して
好子が出現したり
嫌子が消失すること

定比率

決められた回数 of 行動をした直後に好子が出現する

変比率

何回か行動すると（回数は一定ではない）好子が出現する

定時隔

前回の好子の出現から一定時間経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

変時隔

前回の好子の出現からある時間（時間は一定ではない）経過後の最初の行動の直後に好子が出現する

戦略④ 行動の般化・定着

【分化強化】

ある**反応クラス**に属する行動を**強化**し
それ以外の反応クラスの行動は**消去**すること

【反応クラス】

何らかの共通特性をもった
反応の集合

何に注目して
どの行動を
強化するか を
明確に決めること

戦略⑤ 行動の自立

プロンプトフェイディングの例

身体プロンプトを使用して行動を教える

モデリングを使用して行動を教える

声掛けを使用して行動を教える

プロンプトなしで行動ができる

手助けレベルを減らす

ことばかけのフェイディング

・「部屋に入ったらくつをくつばこに入れるよ」



・「部屋に入ったら最初にすることはなにかな？」



・「約束を思い出してごらん」

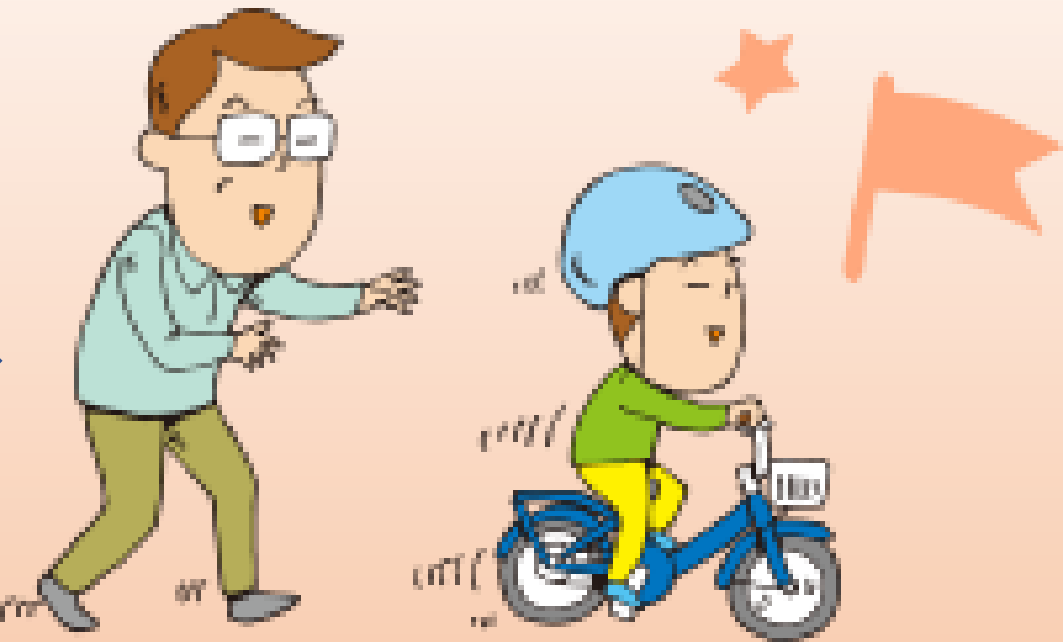
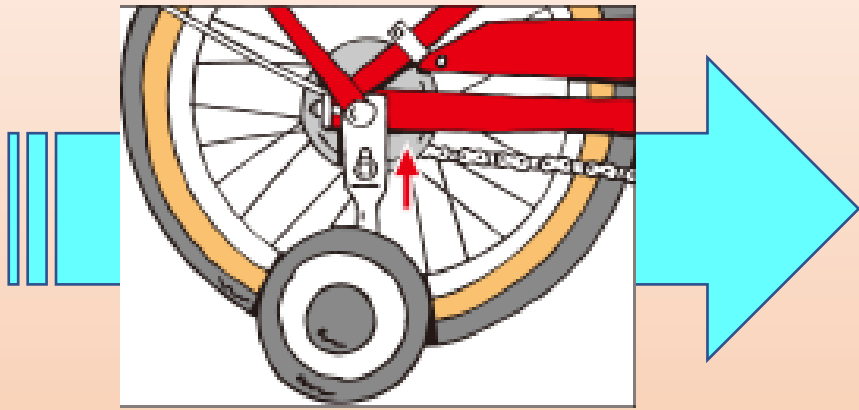
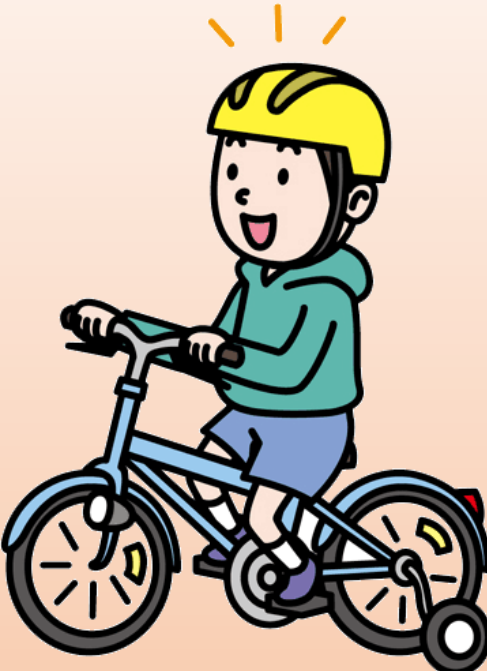


・（声かけせずに待つ）

「支援」とは？

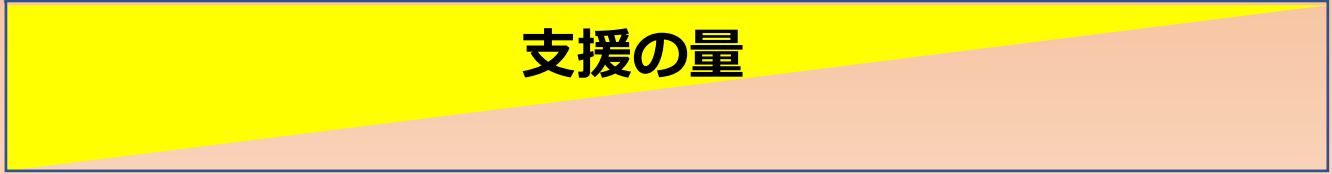


支援とは…



支援 = 補助輪
つけ → 補助輪
はずし

ひとり
で
できる



ステップ ②

状況と時期の
適切な見立て

ステップ ①

① 行動問題の発生
を回避する支援力

② 望ましい行動を
身に付けさせる

- 支援デザイン力のコーチングスキルを身に付けているか？
- ティーチングスキルを身に付けているか？
- カウンセリングスキルを身に付けているか？

コーチングとは？

「コーチングとは、もっとも欲しい結果（ゴール）を明確にし、自分一人では絶対に行くことができないであろう速さで、ゴールに向かうことを助けること」



望ましい行動を身に付けさせる

コーチングスキル（目標管理）

モチベーションって

TEMONA

Maslowの 欲求の5段階説

モチベーションと動機づけ

動機づけの種類



社会的動機づけ

外発、内発、達成を包含する

外発的動機づけ

処遇、待遇、金銭、義務

内発的動機づけ

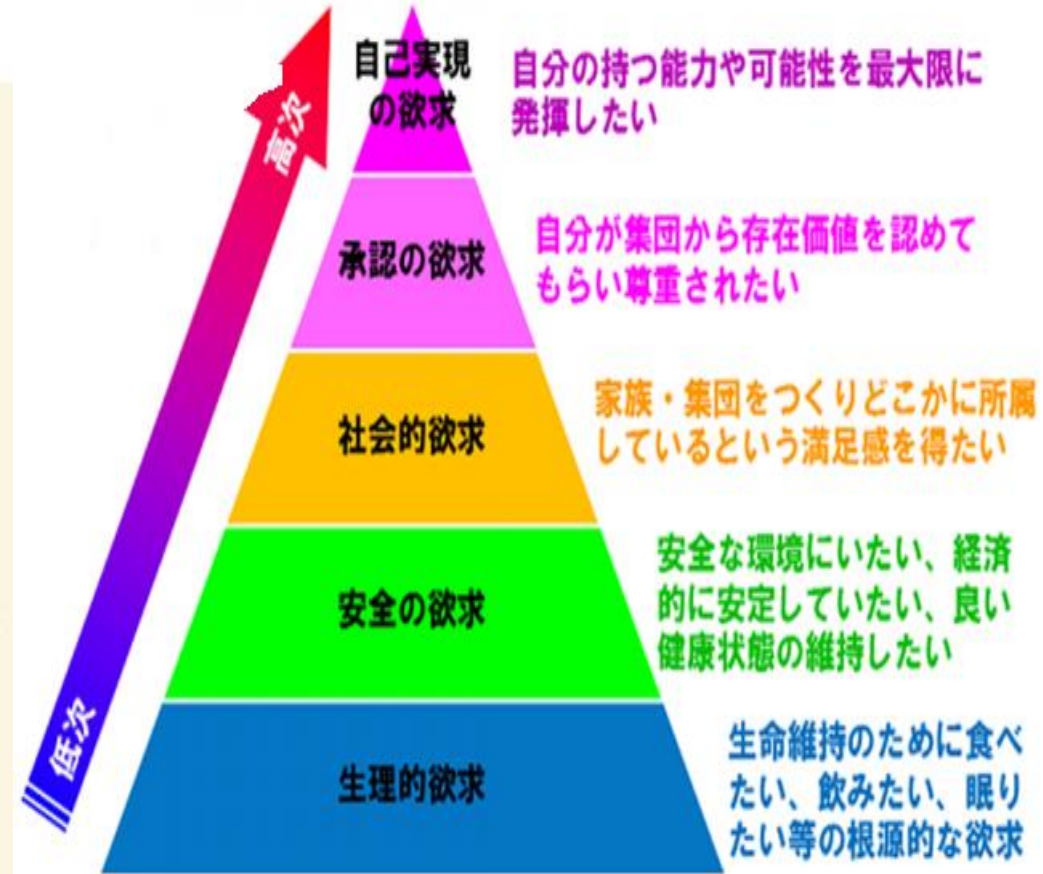
好奇心、感情性、挑戦性、認知性

達成的動機づけ

より目標達成をしようとする

生理的動機づけ

食べたい、寝たい、排泄したい



社会的動機付け

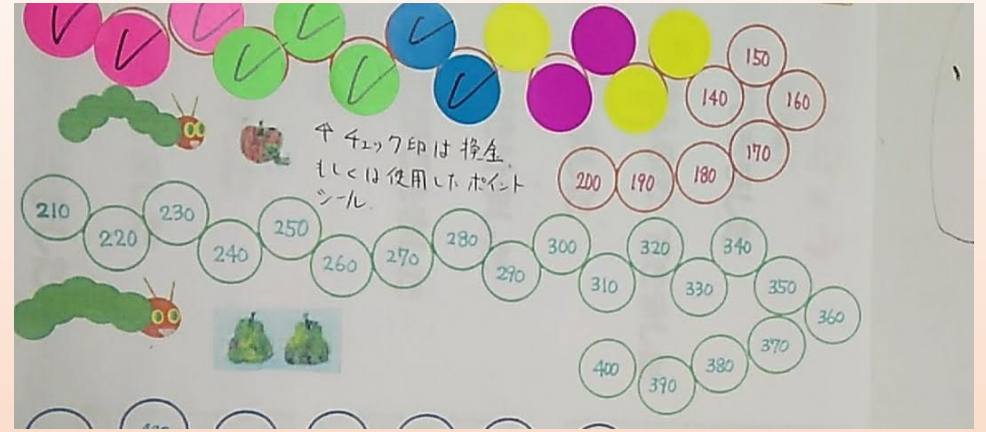
- 遊戯動機**…楽しさや面白さを求める。緊張をやわらげ、冗談やゲームを好む。
- 理解動機**…理論的な考えを求めたり、物事の仕組みを理解しようとする。
- 変化動機**…新しいことを好み、流行に敏感で変革を求める。
- 秩序動機**…安定、秩序、伝統、などを大切にする。整理、整頓、正確さを目指す。
- 達成動機**…努力して高い目標をやり遂げる。才能を生かし自尊心を高める。
- 親和動機**…好きな人の近くにいたい、助け合いたいと思う動機。友情を重視する。
- 屈辱動機**…自分を責め、非難や罰を受け入れたいと思う。敗北を認める。
- 攻撃動機**…言葉や力を使って相手を屈服させたい、反対を克服したいと思う。
- 自律動機**…束縛、強制、横暴な権威、因習を嫌い、自由と独立を求める。
- 支配動機**…人の上に立ちたい、説得や命令によって人に影響を与えたいと思う。
- 服従動機**…優れた人の命令に従い、その人の言う通りにしたいと望む。
- 顕示動機**…目立ちたい、人を驚かせたり、楽しませたりして印象づけたいと思う。
- 援助動機**…弱い者、困っている者などを助け、慰め、励ましたいと思う。
- 依存動機**…甘えたい、助けてもらいたい、愛されたい、同情されたいと思う。
- 異性愛動機**…異性を求め、恋愛関係や性的関係に関心を向ける。
- 屈辱回避動機**…失敗して軽蔑されることを避けたいと思う。自己防衛的な思い。



望ましい行動を身に付けさせる



コーチングスキル (目標管理)



にもつやくつ・けんおんまで、できました
 しゅくだい・かだいをしました
 せんせいのいうことがきけました
 こうたいであそぶことができました
 かたづけができました
 ものをだいにじにつかいました

※直筆で書く。出来ない場合はスタッフが記入。

じぶんのめくひょう(自分の目標)

※となりの良い事表から自分の目標を書く。出来ない場合はスタッフが選んで記入する。ちなみに何個選んでも良い。

じぶんのほしいもの(自分の欲しい物)

※自分のほしい物や、やりたい事を書く。出来ない場合はスタッフが記入。予算は2,000円前後なのでオーバーしそうな場

2 シールを貼る・評価について... 基本は児童の自己申告を元に評価します。子供たちが自分から『出来た』ことに対してシールを貼っているのですが、明らかに出来ていない事では貼らずに、他の出来たことを一緒に探すようにしてください。10個の項目から3個以上できたら3枚シールを貼ります。1個の際は1枚、2個の際は2枚貼ります。基本的に毎日3枚貼っているのですが、あまりにも出来なかったことが多い時は、1~2個貼って『今日は出来なかったことが多かったから、明日頑張ろう!』など声掛けをしましょう。なるべく出来たことを一緒に探すようにしてください。評価・シール貼りは帰る時に行います。3~5分を目安として行ってください。

3 シール管理について... シール管理は田邊・松尾が担当します。担当からシールをもらい、なるべく本人に貼らせるようにしてください。曜日でシールを色分けしていますが、どうしてもミスする場合があると思うのであくまでも原則とします。

月曜日... 火曜日... 水曜日... 木曜日...
 金曜日... 土曜日... 以外のシール

4 シールの換金について... シール1枚 = 10円(トイ円) で換金できます。換金のタイミングはいつでも可能ですが、ある程度溜まってからの換金をするように誘導してください。また、換金したり、シールのままで使用した場合はマジックで印を入れて、使用済の印を入れます。トイ円の管理も田邊・松尾が担当しますので、児童が換金を希望した場合は担当に伝えて下さい。

5 ご褒美について... トイトイガチャ 1回 100円 もしくは シール10枚
 自分が欲しい物(欲しい事) 1,000円 もしくは シール100枚
 ※他にも月間で一番ポイントを貯めた児童には表彰など 考えています。決まり次第、随時申し送ります。

望ましい行動を身に付けさせる

コーチングスキル (目標管理)



○□	A児	はさみを使うことが苦手だったが切り方を教えてあげたら、最後は上手に一人で切ることができるようになった。
		<p>はさみを使う技能を記述する記録はとても難しいです。まず、苦手とありますが、どこが、なにが苦手だったのでしょうか？はさみを使う技能には、いくつかの要素があります。はさみのもち方、切る紙のもち方、はさみの歯の上下移動の仕方、はさみの歯の切る位置、切る紙の動かし方（回転や持ち替えなど）、速さと正確さ、などなどこのうちのどれが苦手だったのでしょうか？切り方を教えたとありますが、どのような切り方を、どのような方法で教えたのでしょうか？口頭のみ？モデルを見せた？モデルを見せてやらせて見せて評価した？何度か練習させた？など教える内容もさることながら、教え方もとても重要です。苦手な内容と教えた内容と方法を明確に意識して記録に向かえば、「上手に」という記述はできなくなると思います。上手とは何を指しているのか不明だからです。このようなはさみを使う技能の要素の記述が、詳細にすべて記述されるのであれば、インデックスはこれでもよいと思いますが。うまくできない、まだやったことがない技術や技能を教える場合は、そもそも人はその技能をどのようにして身に付けていくのか、その原理を知っておかないとほぼ教えることができません。逆に、教える内容・要素をしっかり分析し支援者側が把握していれば、教える内容が明確になり、できるようになる時間もきっと短く、成功体験を味わう可能性もぐ～んと上がります。</p>

ティーチングとは？

「できた」「わかった」の**要素分析**と**過程分析**が重要！

【はさみの使い方を教えるって？】

- ・ はさみのもち方
- ・ 切る紙のもち方
- ・ はさみの歯の上下移動の指の動かし方
- ・ はさみの歯で切る位置
- ・ 切る紙の動かし方
- ・ はさみを動かす速さ
- ・ 目線の位置



★ 教える技術

1 2

「3分間で学級全員が跳び箱を飛ばせることができる技術」

- ・ スピードに乗って助走する
- ・ 両足で踏切ジャンプする
- ・ 跳び箱の先の方に両手をつく
- ・ 腕を視点にして体重移動する
- ・ 腕を視点にしてと簿箱の向こう側へ降りる
- ・ 両足で着地する



望ましい行動を身に付けさせる

ティーチングスキル（子どもへの指示）

AさせたいならBと言え

※ AさせたいときAと言うのは素人

片付けさせたい時

- ・これを片付けたあと、一緒に〇〇しようね
- ・どっちが早いか先生と片付けの競争しよう
- ・このタイマーが鳴ったら遊びは終わって片付けだよ
- ・この写真と同じにできるかな？
（片付けた状態の写真を見せながら…）
- ・片付け手伝おっか？
- ・上手に片付けできたことをお母さんにお話ししようね
- ・終わったら片付けマンシールをあげるね
- ・この音楽が終わるまでに片付けできるかな？
- ・このブロックは、どこに直すといいのか教えて！
- ・次は〇〇するので、その前に片付けタイムね
- ・「お片付け～♪」（歌って片付けしてみせる）

走るのを止めさせたい時

- ・お外に行く人～？
- ・なわとびする人～？
- ・おやつ食べよっか？
- ・公園に行って思いっきり走ろうよ
- ・しっぽとり追いかけてこしよう！
- ・スタートを決めてかけっこ競走しよう
- ・走るの速いねえ！どうやったらそんなに速く走れるのか先生に教えてくれる？

※止めさせる系は、別のことに気持ちを切り替えさせることが有効だと思われます。しっかり気持ちが切り替わった後、ダメな理由等をじっくり言い聞かせる場面をつくると思います！



自己肯定感を高めるカウンセリング的かわり

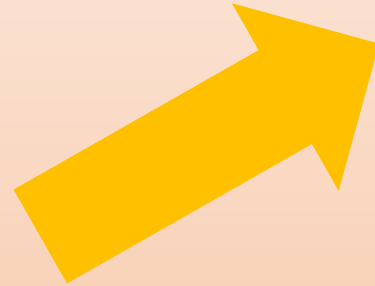
「リレーションづくり」→「問題の把握」→「解決処置」

【カウンセリングの技法を活かす】

- 1 受容 …あいづちをうちながら「うむ、うむ」と聴く
- 2 支持 …相手に同調する気持ちを表現する
- 3 繰り返し…相手の話したポイントを相手に投げ返す
- 4 明確化 …相手が意識化していないことを言語化して返す
- 5 質問 …相手を助けるための質問をして情報を手に入れる

状況と時期の
適切な見立て

① 行動問題の発生
を防ぐ



② 望ましい行動を
身に付けさせる

- ・ 問題の分析
- ・ 問題を防ぐ環境設定
(もの・ひと・こと)

- ・ 成功体験を積む
- ・ 環境設定をあえて緩める

支援を考える2つの理論

A (状況)

きっかけ
行動の目的
行動の機能

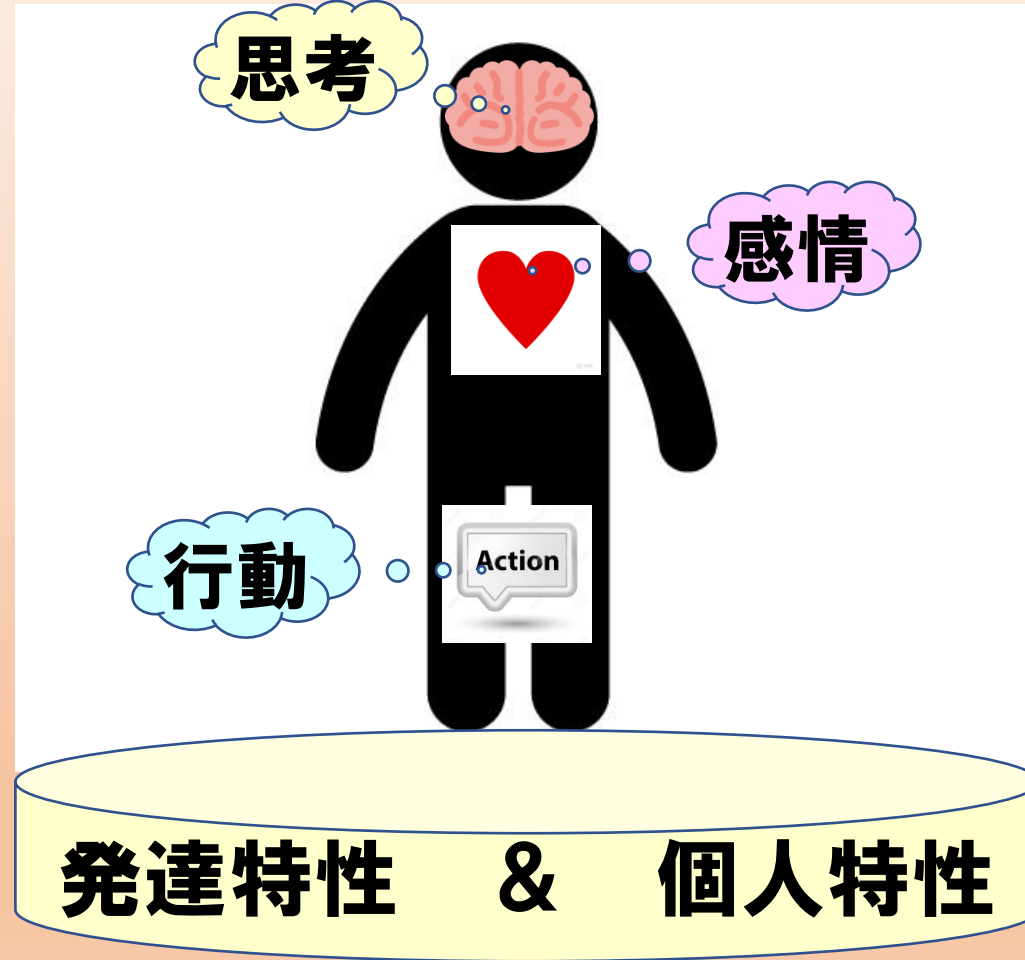
外的刺激

TEACCH

もの・ひと・こと



B (行動)



C (結果)

要求達成
心理的安定
心理的満足

内的刺激

ABA

強化子・意味づけ